

科目名	ジャーナリズム実践演習 I	担当教員	佐々木 伸
科目属性	専門科目群 E群	単位数	2単位 (面接0.5単位)
<p>【授業概要】</p> <p>ジャーナリズムの実践的な姿勢と取材・執筆の基本を学ぶ。ジャーナリズムの基本は世の中の事象について、独立・中立的な立場を維持し、あくまでも公正を保ち、真実追求の報道をすることである。とりわけ、権力の乱用や不正を監視する役割は高まることはあるにせよ、弱まることはない。フェイクニュースがあふれるこの時代にあっては、その社会的な役割と責任は一段と重要になっている。</p> <p>インターネットの飛躍的な普及により、活字からパソコン、スマホによる通信、さらにはソーシャルメディア（SNS）の流通、拡散により、メディアを取り巻く環境が激変、ジャーナリズムのあり方があらためて問い直されている。</p> <p>本講では、政治、社会、経済、国際、スポーツ、文化、科学など様々な分野での実際の取材と執筆の方法を学び、日々の出来事を分析、検証しつつ、ジャーナリズムの果たすべき役割と責任がどのようなものなのかを探求する。ジャーナリズム・メディアが共生社会を形成する上で、どのような手助けができるのか、またしなければならないのかについても考察する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、不確実性漂う今の時代を的確に分析、把握しジャーナリズム・メディアの果たすべき役割と責任、その可能性を探求する。 2、ジャーナリズム・メディアの原則と倫理について理解する。 3、取材・執筆方法の実践、文章論を学び、一般記事を作成できるようにする。 4、政治、社会、経済、国際、スポーツなど様々な分野の取材・報道について学ぶ。 5、インターネット時代のジャーナリズム・メディアの背景と問題点を考察し、フェイクニュースの見分け方などを身に着ける。 <p>【授業計画】</p> <p>授業計画としては以下の15回におよぶ内容となるが、教科書「ジャーナリズムの役割特論」（ダウンロード教材）「実践ジャーナリズム養成講座」などに基づいて学習。スクーリング（前半後半の2回）で実践演習問題に取り組み、また出題された課題については次のスクーリングまでに提出し、評価を受ける。スクーリング後にレポート（2000字～4000字程度）を提出、その評価を踏まえて最後に科目習得試験を受ける。その上で、下記のような割合で総合評価を下すという形にしたい。（2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ニュースとは何か 2、記事の形態（本記、解説、雑観、サイド） 3、取材の実践（3つの形） 4、インタビューのやり方 5、記事の執筆—逆三角形記事 6、文章論—3つのパターン 7、設計図技法の秘密—誰でも文章が書けるようになる 			

- 8、ラブレターの書き方
- 9、良い記事、悪い記事—情報を何でも盛り込まない
- 10、報道の問題点—実名・匿名報道、メディアスクラム、誤報とねつ造
- 11、専門分野の実践—政治報道、経済報道
- 12、同上 —社会報道 事件・事故報道（疑獄、大震災）
- 13、同上 —国際報道と特派員
- 14、メディアの倫理と規範
- 15、メディアの組織

【評価方法】

評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。

【教科書】

「ジャーナリズムの役割特論」（佐々木伸、ダウンロード教材）

「ジャーナリズムの倫理と規範」（藤田博司、我孫子和夫 新聞通信調査会）

【参考図書】

「実践ジャーナリズム養成講座」（花田達朗、ニューズラボ研究会編著）

「ネットメディア覇権戦争」（藤代裕之 光文社新書）

「ポスト真実の時代」（津田大介、日比嘉高 祥伝社）

「ポピュリズムとは何か」（水島治郎 中公新書）